

# ドル/円相場のトレード戦略

## 【ドル/円 週足】



### ■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半では108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り105円台に突入しました。

良好な米経済指標が示すように米国経済は堅調であり、日米の景況感格差や金融政策の方向性などといったファンダメンタルズから考えてさらに一方的にドル安が進むとは考えにくいものの、ドルの大きな反転も期待しにくい状況となっています。

## ドル/円相場のトレード戦略

本年はレンジ相場が継続するという見方に変化はないものの、想定レンジを100円～115円程度に下方修正する必要がありそうです。

また、昨年から続いてきた三角持ち合いを下方ブレイクしたことで、これまでのサポートラインが上値抵抗となる可能性は高く、目先は109円水準が戻りのめどとなりそうです。

### ■短期展望

先週は、109円台を中心とした動きながら上下に荒い動きが続きました。

週初109円前半でオープンしたものの、トランプ米政権がイラン核合意からの離脱を正式に表明すると、直後に108円台後半まで下落しました。しかし、その後すぐに109円台を回復し、10日には一時週高値となる110円02銭をつけました。

その後、米4月消費者物価指数(CPI)が総合・コアともに予想を下回ると109円台前半まで急落し、109円前半で週を越えています。

今週も、先週同様109円台を中心とした揉み合い相場が予想されます。米経済は引き続き良好さを維持しており、FRBによる年内の利上げの可能性もあと2から3回期待されています。そうした中、北朝鮮情勢は米朝首脳会談を前に落ち着いており大きなドル売り要因は見当たりません。

しかし、米国を中心とした貿易戦争への懸念は残っており、またテクニカル的にも110円台でのダブルトップが意識される形で、ドルの上抜けもイメージしにくい状況です。

したがって、新たな材料が出てこない限り、108円～110円での取引が続きそうです。